

一、次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

かつて海は、巨大な文明の篩^①であった。文明どうしを繋ぎながら隔て、選ばれた人と文物だけに、そのあいだの交流を許した。千年以上も、日本列島の西の海はユーラシア大陸の文明に篩をかけ、そこからさまざまな大思想や大技術をこの国に伝えたが、日常の風俗習慣は移さなかった。日本人は漢字は受け入れたが、話し言葉は学ばなかった。仏教と寺院の基本的な構造は受容したが、朝夕の立ち居振る舞いはゴユウの風を守った。やがて、この島には漢字かな混じり文が成立し、板床を張って人を座らせる独特の寺院建築が確立した。近代日本もその初期のうちには海の壁の恩恵を蒙り、工業技術は輸入しながら、それに伴うはずの階級社会の文化は拒んだ。海の篩は、とかく知的な情報を多く伝えて身体的な情報をサエギリ、より大規模に文明を伝えて文化を伝えなかつたといってもよい。

海はまた、文明を間隔を置いて断続的に伝播させた。ある文明が革命的に力を増し、造船と航海の技術が飛躍したときに、それは海を渡った。西洋文明が地中海に生まれ、やがてそこを踏み出して東洋に至るまでには、二千年近い時が流れた。太平洋が渡航できる海となり、アメリカ文明の窓となるには、さらにそのときから二百年がたった。その結果、他文明は長い静かな時を隔てて、衝撃とともに巨大な情報に襲われることになった。種子島にたどりついた二丁の鉄砲も、江戸湾を脅かした四杯の黒船も、日本にとって夢を醒ます衝撃であった。それは陸路によって継続的に伝わる情報よりも、一つの文明を緊張させて、内部から変革を促す力を持つていた。

そして文明を具体的に運んだ人間もまた、選ばれて日常の外に出る人びとであった。商人であり軍人であり、知識人であり冒険家であった。彼らは野心に燃え使命感に溢れ、好奇心に満ちて異質なものを愛した。しかも船旅は港を離れると、長時間、空と水だけの文明のない空間を経過する。その長い空白のあとで、にわかに出会う異文明は劇的に新鮮であったにちがいない。留学生であれ伝道師であれ、海の旅人は自他の文明の個性を意識に刻み、しばしば文明の変革者になった。

幸か不幸か、彼らは二重の孤独になりがちであった。船旅は生涯にたびたびはできないから、いったん異国の土を踏めば滞在は長くなった。彼らは異質の風俗習慣を体験し、文明を下支えする文化の細部をからだで味わった。容易に身につかない異質文化のなかで孤独になり、それを身につけて帰国すると、今度は故郷で孤独になった。だが、その孤独のなかで彼らは異文明の全体を理解し、文明交流の難しさも、それにどんな覚悟が必要かを学んだ。森鷗外もたぶん空海も、自国と外国の文明を深く愛し、それゆえに違いの大きさをなめてはならないと知っていた。

長らく、海は夢や憧れといった言葉を連想させたが、それはこの篩としての働きのせいであった。海辺は人を立ちどまらせ、脱出への思いをかきたて、逆にまた故郷への愛をも再確認させた。海は文明を相互に開かせるとともに、そのそれぞれに求心力を与え、生きた有機体として統一する力を持つていた。

二十世紀は、海のそうした力が失われ始めた時代であった。海を渡る手段は船から航空機に変わり、大量の普通の人間が、文明の空白の時間を持つことなしに異文明を訪れる。海峡には橋がかかり、戦争は宇宙で行われ、船は情報のガンゴウ量の少ない物材の運搬手段になった。通信衛星やインターネットは、高度な知的情報を即時に間断なく伝え、それから感動をとまぬ新鮮さを奪った。身体的な情報も風俗の表層の普遍化によって、太平洋の両岸で違いがないような錯覚を与える。旅人は日常から別の日常へと移るだけで、自他の文明を強く意識する機会は乏しくなった。

にもかかわらず問題は、世界の文明はまだ一つになっておらず、とくに文明を下支えする文化の層で違いが大きい、という現実であろう。市場の自由競争という原理は普遍化しても、人びとの身についた平等の感覚、階層差への不満の強さは国によって違う。ポスト工業化、知的生産の優位という文明は広がっても、そのための知的リーダーを尊敬し、優遇する文化も社会ごとに差がある。それなのに、篩としての海を失った現代世界は吹き抜けになり、人びとに覚悟のための衝撃さえ与えずに、「世界標準」を伝播してしまう。

憂慮すべきは、このことが受容する側の人間を二つに分け、文明の立場と文化の立場を思想として対立させることである。普遍主義の文明派は世界標準だけに目をとめ、それについて行かない自国の風土に焦慮する。文化派の民族主義者は感情的に反発して、世界標準そのものを拒否しようとする。じつは世界標準とはれつきとした外国文明であり、にもかかわらず日本はそれを受容するほかないのが現実なのであるが、その覚悟がどちら側にも薄れがちだといえる。文化ぐるみの文明の異質性を噛みしめたうえで、その融合を図った鷗外の忍耐が忘れられているのである。

現実の海の喪失は避けがたい以上、いま必要なのは心に海を持つことであろう。世界を知るのにインターネットの映像ではなく、生きた外国人と違いの見える近さでつきあうことである。逆に風俗の表面的な共通性には距離を置いて、何が真に普遍的な文明かを徹底した思索の篩にかけることなのである。

*森鷗外：小説家。陸軍軍医。一八六二～一九二二年。ドイツに留学した。

*空海：真言宗の開祖。七七四～八三五年。遣唐使として唐に渡った。

問一、破線部イ～ニの漢字及び読みとしただけしいものを次から選びなさい。

(イ：解答番号1、ロ：解答番号2、ハ：解答番号3、ニ：解答番号4)

- (イ) コユウ 1、固有 2、古有 3、個有 4、孤有
(ロ) サエギ(り) 1、断 2、挟 3、遮 4、隔
(ハ) 伝播 1、では 2、でんぱん 3、でんば 4、でんはん
(ニ) ガンユウ 1、願有 2、含有 3、眼有 4、玩有

問二、傍線部①を説明した次の文の空欄A～Cにあてはまる適切な語句を選びなさい。

(A：解答番号5、B：解答番号6、C：解答番号7)

「篩」は、語源的には、八行四段動詞「A」の(B)形が名詞化した語である。道具としては、(C)なものだけを通過させてより分け、(C)でないものを通過させずに排除する働きをする。

- A 1、ふるう 2、ふるふ 3、ふるい 4、ふるえる 5、ふるはる
B 1、未然形 2、連用形 3、終止形 4、連体形 5、已然形
C 1、純粹 2、自由 3、必要 4、普通 5、好き

問三、傍線部②の意味として最も適切なものを、次から選びなさい。

(解答番号8)

- 1、けしき 2、ようす 3、きだて 4、おしえ 5、ならわし

問四、傍線部③とあるがなぜか、次から選びなさい。

(解答番号9)

- 1、海を渡った文明は断続的に伝播したので、他文明を衝撃とともに巨大な情報でおそったから。
2、海を渡った文明は文明どうしを繋ぎから隔て、選ばれた人と文物だけにその間の交流を許したから。
3、海を渡った文明はさまざまな大思想や大技術を伝えたが、日常の風俗習慣は写さなかったから。
4、海を渡った文明及び旅人は自他の文明の個性を意識に刻み、文明の変革者になったから。

問五、傍線部④について、

(解答番号10)

- (イ) 「二重の孤独」として適当なものを次から選びなさい。
1、長い旅を続ける上での孤独と新天地に辿り着いても続く孤独感。
2、異質文化を修得するまでの孤独と身につけたが為を感じる自国に戻ってからの孤独感。
3、外国で自国文化を伝える間、なかなか理解してもらえない孤独と周囲に仲間がいない孤独感。
4、選ばれて文化を伝える立場に立ったエリートとしての孤独と自国と異国との間の隔たりを一人感じ続ける孤独感。

(解答番号11)

- (ロ) 「二重の孤独」の中に置かれた「彼ら」についての説明として最も適切なものを、次から選びなさい。
1、異質の風俗習慣をからだで味わい主に身体的な情報を身につけた。
2、深く愛した自国と外国の文明の交流にどんな覚悟が必要かを学んだ。
3、自他の文明の違いをなめてはならず、その交流は不可能と知った。
4、世界標準に目を向け、それについて行かない自国の風土に焦慮した。

問六、傍線部⑤について、

(解答番号12)

- (イ) 「篩としての海」に備わっていた力の説明として正しいものを次から選びなさい。
1、文化ぐるみの文明の異質性を噛みしめたうえで、その融合を図った力。
2、風俗の表面的な共通性には距離を置いて、何が真に普遍的な文明化を徹底した思索の力。
3、風俗の表層の普遍化によって、身体的な情報も各国で違いがないような錯覚を与える力。
4、文明を相互に開かせるとともに、そのそれぞれに求心力を与え、生きた有機体として統一する力。

(ロ) 現代社会が「篩としての海」を失うことになった要因と考えられるものとして最も適切なものを、次から選びなさい。

(解答番号13)

- 1、若者文化の普遍化 2、経済活動の国際化 3、科学技術の発展 4、地球環境の破壊 5、地域紛争の激化
問七、傍線部⑥について、

(イ) 筆者がこのように提案した理由として適当なものを次から選びなさい。

(解答番号14)

- 1、外国文化とふれあうことに対する覚悟や衝撃を与え、「世界標準」から脱出するため。
2、文化ぐるみの文明の異質性を噛みしめたうえで、その融合を図るため。
3、普通の人間が文明の空白の時間を持つことなしに異文明を訪れる危機から逃れるため。
4、選ばれて日常の外に出ることはなくなりましたが、せめて外国人と接する時は非日常を感じさせるため。

(ロ) 具体的には「生きた外国人」のどのような部分に着目するように提案しているのか、適切なものを次から選びなさい。

(解答番号15)

- 1、知的な情報
- 2、風俗の表層の普遍化
- 3、身についた平等の感覚、階層差への不満の強さ
- 4、世界標準

問八、本文の内容に合致するものを、次から選びなさい。

(解答番号16)

- 1、かつて文明はみな海を渡ったため、大思想や大技術、文物などを伝える手段である海運の発展の程度がその国の文化水準を左右した。
- 2、西洋文明が東洋に至るのに二千年かかったのに比べれば短いものの、待ちに待ったアメリカ文明の日本への到来も二百年かかった。
- 3、二十世紀にはインターネットが発達して、風俗が太平洋の兩岸で全く違わなくなり、自他の文明を強く意識する機会が乏しくなった。
- 4、異国で文化ぐるみの文明に接した森鷗外は文明交流の難しさを十分理解したうえで、自国と外国の文明の融合を図って忍耐を重ねた。
- 5、篩としての海を失った現代において「世界標準」という普遍的な文明を伝播し受容するために、一人一人が心に海を持つ必要がある。

問九、本文について説明した次の文の空欄A・Bの答えを後から選びなさい。

(A：解答番号17、B：解答番号18)

「篩としての海」をキーワードに、有史以来二千年にわたる時間の流れと東洋と西洋にわたる空間の広がりを見事に収めて世界の姿を大づかみにしてみせたダイナミックな文明論である。海は文明どうしを繋ぎながら隔て、それゆえ、長らく夢や憧れといった言葉を連想させてきたと、筆者は指摘する。文明交流という長大なうねりのような事象を扱いながら、それを担う人間ひとりひとりの心のうちのさざ波をも見逃すまいとする姿勢がうかがえる。

その筆者が「憂慮」するのが世界標準の荒波に洗われる現代社会の状況だ。世界標準を無条件に受け入れて自国の旧弊を嘆く文明派と、世界標準を感情的に否定して極端に(A)化する文化派が、思想的な対立を見せているのである。世界の文明が一つになつていない以上、「世界標準」は実はその(B)通りのものとは言えず、しかし、それが事実として強大な力を持つ以上、誰もがそれを受容するほかないのが現実だ。今、大切なのは真に普遍的な文明を見極める自覚的な思索の積み重ねであると筆者は主張している。

- 1、活動
- 2、名称
- 3、約束
- 4、保守
- 5、理想

二、19～23について、正しい読みを選びなさい。

- | | | | | | |
|----|-----|---------|---------|----------|----------|
| 19 | 享楽 | 1、きょうらく | 2、こうらく | 3、とうらく | 4、ほうらく |
| 20 | 収斂 | 1、しゅうえん | 2、しゅうけん | 3、しゅうせん | 4、しゅうれん |
| 21 | 刹那 | 1、さつな | 2、せつな | 3、らつな | 4、りつな |
| 22 | 矮小化 | 1、いしょうか | 2、きしょうか | 3、るいしょうか | 4、わいしょうか |
| 23 | 真摯 | 1、しんし | 2、しんしゅ | 3、しんしつ | 4、しんしゅう |

三、24～27の傍線部にあてはまる漢字をそれぞれ後から選びなさい。

- 24 合理化をハカる
- 25 審議会にハカる
- 26 悪事をハカる
- 27 ハカリ売り

- 1、諮
- 2、図
- 3、測
- 4、量
- 5、謀

四、28～32のそれぞれについて該当するものを選びなさい。

- | | | | | | |
|----|----|-------|-------|-------|-------|
| 28 | 容易 | 29 普及 | 30 入京 | 31 欧化 | 32 否定 |
|----|----|-------|-------|-------|-------|
- 1、下の漢字から上の漢字に返って読むもの
 - 2、意味の似た漢字の組み合わせによりできているもの
 - 3、打ち消しの漢字を伴っているもの
 - 4、下に意味を強めたり、添えたりする漢字がついたもの
 - 5、上の漢字が下の漢字を修飾しているもの

五、 33 ～ 36 の空欄に入る適当な漢字を選び、番号で答えなさい。

- | | | | | | | |
|----|----------|-----|-----|-----|-----|-----|
| 33 | () 代未聞 | 1、現 | 2、先 | 3、然 | 4、前 | 5、全 |
| 34 | 一 () 発起 | 1、即 | 2、念 | 3、触 | 4、存 | 5、捨 |
| 35 | 有為 () 変 | 1、天 | 2、激 | 3、較 | 4、不 | 5、転 |
| 36 | 勸善 () 悪 | 1、超 | 2、微 | 3、挑 | 4、懲 | 5、跳 |

六、 37 ～ 40 について、「日常」に対する「非日常」の「非」のように、あることばについて、その意味を否定する働きをする接頭語がある。そのような接頭語として次のことばには1、「非」2、「無」3、「不」のうちどれがつかか答えなさい。

- | | | | | | | | |
|----|----|----|----|----|----|----|----|
| 37 | 首尾 | 38 | 公式 | 39 | 沙汰 | 40 | 分別 |
|----|----|----|----|----|----|----|----|